

# ご挨拶

教養学部長 水谷 修

1989年、平成元年春に、東北学院大学5番目の学部として発足した教養学部も、おかげさまで30周年を迎えました。発足当初は一学科三専攻、入学定員210名の小さな学部でしたが、1995年には、時代の要請に応え、学問の実践化を掲げて新しい教育・研究領域と教育方法を取り入れるとともに、専攻を学科にかえるとといった学部改組を行いました。いまでは、4学科を抱え、入学定員は発足当初の2倍以上の440名となっています。

2008年には、設置20周年の記念事業を実施し、同年10月刊行の教養学部論集150号では、教養学部設置20周年を記念して特集を組み、20年間の言わば総括を行っています。それから10年が経過しました。この10年を振り返ると、2011年3月に、未曾有の災害をもたらした東日本大震災を経験しました。教養学部が置かれている泉キャンパスも大きな被害を受けましたが、震災を機に、学生と教員が一緒になって地域の農業の復興に貢献するボランティア組織を作り上げるなど、地域とのつながりにも一層力を入れてきました。また、震災後は、学部の教育活動の根幹をなす卒業研究で、多くの学生が震災をテーマに論文を作成しています。また、一番の心残りだった2011年度の卒業式を「8か月遅れの卒業式」として開催したことも、教養学部30年の歴史の中で特筆すべきことがらです。

2018年に、教養学部は、設置30周年を迎え再び記念の事業を実施することにしました。事業を通して、高校生および地域社会に教養学部の教育・研究・地域貢献活動を広くPRし理解してもらうこと、および卒業生のネットワークの強化を図ることがねらいです。

本論集も、その一環として、30周年の特集を組んでいます。改革の時代にあっ

て必要なことは、まずもってこれまでの歩みを振り返りそれを記述することだと考えました。その意味では、「論集」という性格からはみ出した記事もありますが、卒業生や元職現職の教員など、様々な立場から教養学部の活動を振り返り、成果や課題あるいは教養学部に対する思いを語っています。この論集を教養学部の今後の教育・研究・地域貢献のあり方を考える手がかりとしたと考えています。

さて、この 30 年の間に、教養学部の卒業生は 8,000 名を超え、家庭・職場・地域で、様々な役割を担い活躍しています。その基盤となっているのが、学部発足当初からの理念に掲げられている「人間生活の抱える種々の問題に対処する『新しいタイプの教養人』」としての資質です。教養重視を掲げる東北学院大学にあって、教養学部はその中核を担う学部として、これからも、地域社会で活躍する「教養人」が育つ学部であり続けたいと考えています。そのための努力を、多様な専門分野の、個性豊かで熱意のある教員・職員一同で、今後も続けていく所存です。

最後になりましたが、30 年の間、教育と研究の歩みを継続・発展してこられたのは、地域社会の支持があったからです。学内外の皆様の支えと助けに感謝し、お礼を申し上げます。